

カンボジアで圧倒的な存在感を放つイオンモール

～首都プノンペンで今一番ホットなスポット～

シンガポール事務所

1 カンボジアの概要

カンボジアは、東南アジアのインドシナ半島に位置しており、ベトナム・タイ・ラオスとそれぞれ国境を有しています。国土面積は約 18 万 km² であり、隣国ベトナムや日本の半分、タイの 1 / 3 です。東側はベトナム、西側はタイ、北側はラオスと国境を接しており、南側はタイ湾 (Gulf of Thailand) となっています。国土は大半が平野であり、国土の中央をメコン川が南北に流れ、北西部の中心に巨大なトンレサップ湖を擁しており、農業が盛んな国で、国民の約 64% が農業に従事しています。

公用語はクメール語ですが英語を話せる人も多く、また通貨は、リエルに加えて米ドルが一般的に流通しており、飲食店やショッピングセンターでは米ドルでの支払いが可能です。

カンボジアの一人あたりの GDP は、2013 年度で 1,040 ドルとなっており、タイ (5,674 ドル) やベトナム (1,902 ドル) と比較して低いものの、中国をはじめとする各国からの投資や、経済特区の設置などによる海外資本の誘致を促進しており、近年では 7% 以上の経済成長を維持しています。



メコン川沿いにはお洒落なカフェが並んでいる

2 プノンペンの街で圧倒的な存在感を放つイオンショッピングセンター

経済発展が目覚ましい中で、2014 年 6 月にプノンペンに近代的なショッピングセンター「イオンモールプノンペン」がオープンしました。

プノンペン空港から車で約 30 分、中央市場に近い場所に位置しており、敷地面積は約 6 万 8 千 m²、延床面積は約 10 万 8 千 m² の巨大なモールで、1,400 台の自動車及び 1,600 台のバイクを停める駐車場を完備しています。現在のカンボジアの状況は、20 年程前のマレーシアと似ているという見方もあるほど、これまでプノンペンには近代的なショッピングモールはほとんどなく、街中に出現した巨大なイオンモールは、訪れる人たちに非常にインパクトを与えているようです。

プノンペンの人口は現在約 169 万人で、日本人の駐在員も約 2,000 人程ですが、イオンのオープン以降既に約 500 万人が訪れており、注目度の高さがうかがえます。

カンボジアにおいては、年収が 5,000 ドル以上の、いわゆる中間層が増加しています。

これまでは、国内の富裕層が買い物をする場所は限られていたため、タイやマレーシアなどの周辺国で買い物をしている人も多かったようですが、イオンモールに行けば欲しいものがほとんど手に入るため、富裕層を取り込めるチャンスとなっています。

インドネシアやベトナムでは既に大型ショッピングセンターの進出が進みつつあり、ライバル企業が出展しているため、入り込むことが難しくなりつつある一方、カンボジアは市場が大きくないため、競合する企業がまだ少ない状況です。このため、現段階で進出することによりインパクトは非常に大きく、ブランドとして浸透することが期待されています。



地元の人たちでにぎわうモール

3 カンボジアの人々が今求めているモノとは

現状として、プノンペンの中間層は、ローカルのマーケットで主に食料品等の買い物をしており、生鮮食品はスーパーで買うというスタイルはまだ定着していないようです。そのため、モール内のスーパーでの食品の販売は加工品がメインとなっています。

スーパーで販売されているトップバリュの商品は、日本から直接輸入しています。またリンゴや桃、みょうがなども日本から輸入し販売しており、これらは中国産のものとは比べて価格は高いものの品質がよいこともあり、少しずつ受け入れられています。他にも 5~20 ドルの範囲の衣料品も人気となっています。

また、インテリアや造花など、これまでカンボジア国内で流通していなかったような商品の需要もあり、それらは多少値段が高くても売れる傾向があります。将来的には、更なる所得の増加に伴い、冷蔵庫やエアコンなどの家電製品が今後爆発的に売れる可能性があります。なお、カンボジアでは、消費財をほとんど国内で製造していないため、トップバリュ及び生鮮食品以外の商品は、主にタイやベトナムから輸入しています。

4 海外展開で大切なこと

これまで様々な支援を行ってきたこともあり、感謝という対日感情を持っているカンボジア人は実際に多いようですが、日本に対するイメージというものははっきりと持っているとは言い難いのが現状です。その点について、韓国はイメージ戦略を上手に行っており、Kポップなどのカルチャーを輸出し、イメージ戦略を展開したうえで商品の購買に結び付けるやり方を取っています。韓国企業は、企画や協賛金の提案などを積極的に行い、その国に根付いたマーケティングを行っている点で成功しているようです。

5 おわりに

過去の長きにわたる内戦の影響もあり、カンボジアに対してこれまでの紛争や地雷など負のイメージがあるのも否めませんが、実際プノンペンを訪れてみると、想像していたよりもはるかに経済発展を遂げている様子の街並みに驚かされました。

また、イオンモールがオープンしたことによって街には更に活気がでており、日本食レストランの出店も増加しています。更に交通や電力などのインフラも整いつつあり、今後日本からの投資が加速することが期待されています。

(宮崎所長補佐 佐賀県派遣)

